

RHEL カーネル「kernel-2.6.32-358」アップデート 対応 リリースノート

本パッチは、新 208.5 日問題を含むカーネルの不具合に対応するためのカーネルアップデートプログラムです。

1. 問題および影響範囲

条件に該当する環境にて、ウォームリブート（※1）すると再起動中にカーネルパニックやストール、または、再起動後に不安定動作（遅延動作やストール）が発生する場合があります。

以下の条件に該当する場合、本問題が発生します。

- ① Intel Xeon E5 プロセッサおよび、Pentium 1400 シリーズ プロセッサが搭載された装置にて稼働している。
- ② 最後にコールドリブート（※2）を行ってから 208.5 日以上経過している。

※1 本体装置の電源断を伴わない、シャットダウン、システム再起動。

※2 シャットダウン後に本体装置の電源断を実施し、システム再起動。

2. 対処方法

本パッチを適用することで本問題に対応したカーネルバージョンへとアップデートされます。

アップデート後は 208.5 日以上経過した状態でウォームリブートを実施しても問題が発生しなくなります。

3. 補足および注意事項

本パッチは適用必須ではありません。

本パッチにてカーネルアップデートが行われるため、適用を検討されている方は以下の方法でも回避は可能です。

●HW 版、VMware 版共通

- ・ システムシャットダウン後、本体装置の電源を落とす。（コールドリセットをかける）

●VMware 版のみ

・仮想マシンの設定編集より「オプション – 全般」から構成パラメータを選択し、以下を追加します。

名前：

monitor_control.enable_softResetClearTSC

値：

true

以上